

ふるさとの復旧・復興・創生を 未来に紡いで

いわき市・東日本大震災の10年



いわきの防災、歴史学習、まちづくりに幅広く活用を

いわき市長 清水 敏 男

数分間にも及ぶ大きな揺れと大地震が引き起こした大津波、数えきれないほどの余震、そして、原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散と、それに伴って広がる風評。

いわき市は、平成 23 (2011) 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」により、約 18km に及ぶ沿岸部の広範なエリアが津波で浸水したほか、460 名を超える尊い命と多くの貴重な財産が奪われ、建物被害は 9 万棟を超えるなど甚大な被害を受けました。さらには原発事故により引き起こされた風評被害という、複合災害に見舞われました。

そして、あれから 10 年。

この大震災により犠牲になられた方々に対しまして、深く哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、これまでの復旧・復興の取組みに対しまして、多大なるご支援と励ましを賜りました多くの皆様に対しまして、あらためて厚く御礼申し上げます。

この間、いわき市は、国内外から寄せられた物心両面にわたる支援に支えられながら、被災された方々の生活再建を最優先として、復旧・復興関連事業に全力を挙げて取り組んで参りました。その結果、生活基盤の整備は概ね完了となりました。今後におきましては、津波被災地域のコミュニティの再生と原発事故への対応に力を注いで参ります。

このような中、一昨年は令和元年東日本台風等の大規模な自然災害に見舞われました。そして今、新型コロナウイルス感染症という危機に直面しております。

本市はこれまでも、こうした幾多の困難を乗り越えて今日に至りました。決してあきらめることなく、その都度、力強くしなやかに立ち上がってきた多くの先人の叡智と努力に学び、いま目の前にある危機を克服していかなければなりません。

これまでのご支援や励ましをいただいた多くの皆様との絆を大切にしながら、市民の皆様をはじめ多様な主体の皆様と力を合わせ、この危機を乗り越え、「住んで良かった、住み続けたい」と思える故郷の「いわき新時代」をしっかりと築いて参ります。

この記録誌は、東日本大震災から 10 年を迎えるに際し、あらためて全容を総括し、後世に継承するために発刊するものであります。本書が、防災はもとより、いわきの歴史の学習手引き、まちづくり等の研究資料など幅広く活用していただければ幸甚です。

令和 3 年 3 月

Contents・目次

発刊にあたって

いわきの防災、歴史学習、まちづくりに幅広く活用を いわき市長 清水 敏男 2

第1章 地震・津波のメカニズム

1 地震が発生するメカニズム	
(1) 震度とマグニチュード	8
(2) 地震の巣となるプレート境	8
2 津波が発生するメカニズム	
(1) 海底地震によって引き起こされる津波	9
(2) 地震と津波の大きさ	9

第2章 いわき地方における過去の地震・津波

1 歴史のなかの地震、津波	12
2 東日本大震災で注目された貞観地震と大津波	13
3 近世期におけるいわきの津波	
(1) 弘化の暴風雨	13
(2) 延宝房総沖地震と津波	14
4 関東地震（関東大震災）といわき	
(1) 大都市を襲う未曾有の大地震	15
(2) いわき地方の被害と支援	15
5 いわき沖で発生した昭和13年の地震	
(1) 塩屋埼沖地震	17
(2) 福島県東方沖地震	17
6 いわきに影響を及ぼす地震・津波の予報・予知	
(1) チリ地震の余波	18
(2) “地震空白域”の予知調査	19

第3章 東日本大震災の全容

1 東北地方太平洋沖地震の発生

- (1) 大地震の概要 22
- (2) 大地震が引き起こした大津波 24
- (3) 直下型の誘発地震 29
- (4) 東日本大震災の被害概要 31
- (5) 原子力発電所の被災といわき市への影響 32

2 複合災害となった、いわき市の東日本大震災

- (1) 広域多核都市と震災 35
- (2) 複合災害の様相 36

第4章 東日本大震災からの復旧・復興・創生

1 多くの苦難に立ち向かい、初期活動を展開

- (1) 想定外の事態が相次いで発生 40
- (2) 全国から寄せられた多くの支援 43
- (3) 義援金の受け入れと配分 46
- (4) 社会インフラの早期復旧をめざし 47

2 市復旧・復興に向けた基本方針や主要施策を構築

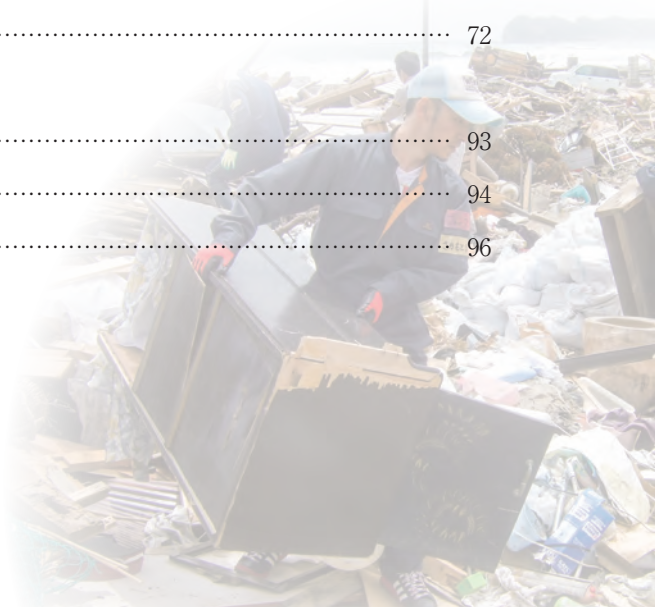
- (1) 市復興ビジョンに基づき、復旧計画、復興事業計画を策定 55
- (2) 早期復興をめざし、復興特区制度を最大限に活用 57
- (3) 震災後10年以降も事業継続 59

3 各施策で地域の復旧・復興を

- (1) 住環境の整備で安全・安心の生活へ 60
- (2) 津波被災を防ぐための社会インフラ整備 69
- (3) 津波被災地域における復旧・復興 72

4 原発事故に伴ういわき市の対応

- (1) 放射線対策の取り組み 93
- (2) いわき産食品などの安全性を確保 94
- (3) 放射性物質の汚染を除去 96



5 産業の再生・復興を力強く推進

- (1) 農業の再生をめざしながら、いわき農産品の安全・安心を発信 100
- (2) 厳しい漁業環境のなか、「常磐もの」の魅力発信 102
- (3) 商業施設の確保で被災地の日常生活を維持 105
- (4) 各種制度を活用した企業誘致策 106
- (5) 新たなエネルギーの創出 107
- (6) 観光交流人口の拡大をめざして 110

6 被災者の支援と心のケア

- (1) 相談窓口の充実と支援員・専門員の活動 111
- (2) 地域コミュニティの確立とまちづくり 112
- (3) 子どもたちへのケア 114

7 原発事故後の状況と被災自治体の受け入れ、連携

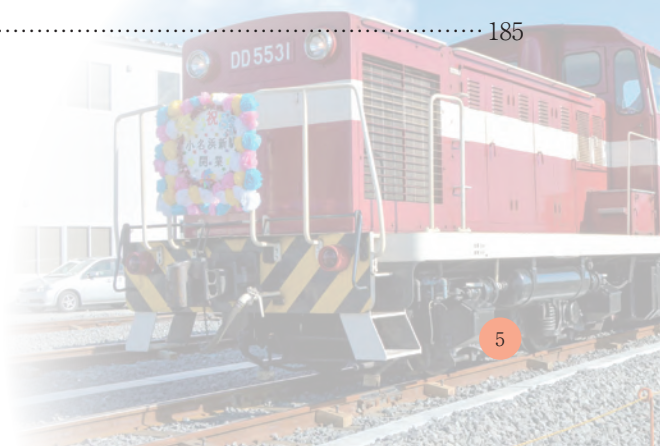
- (1) 市外に避難しているいわき市民への支援 116
- (2) 原発避難者などの動向 117

8 震災後におけるいわき市の社会的変容

- (1) 市外からの避難者増加に伴う変化 124
- (2) 住宅不足による土地価格の高騰と土地政策 127
- (3) 震災が及ぼした産業への影響と復興 128

第5章 定点観測で綴る東日本大震災からの創生

No.1 久之浜地区	139
No.2 四倉地区	149
No.3 好間地区	153
No.4 内郷地区	153
No.5 常磐地区	154
No.6 平地区	155
No.7 小名浜地区	167
No.8 勿来地区	177
No.9 田人地区	185



第6章 災害を継承して防災の未来づくり

1 大規模災害に備えた対応

(1) 原発事故後の対策と避難計画・訓練	188
(2) 避難訓練	190
(3) 大規模災害時の防災拠点を整備	191

2 東日本大震災の記憶・記録を未来に

(1) 語り継がれる大地震	192
(2) 歴史的にみる震災伝承の変容	194
(3) 震災記憶・記録伝承の課題と実践	198
(4) 被災した建造物の行方	201
(5) いわき市における震災継承の取り組み	202
(6) 未来に伝承する力	208

第7章 震災資料・年表

1 震災被害の概況

(1) 被害量の状況	212
(2) 被害額の状況	213

2 東日本大震災時におけるいわき市避難所一覧

3 生活再建に向けた各種制度の概要

(1) 住まいに関する制度	219
(2) 事業主に対する支援制度	220
(3) 暮らしに関する支援制度	220
(4) 各種相談窓口	220

4 応援を得た全国の行政機関一覧

震災年表（平成23年・2011年～令和3年・2021年）	223
参考資料	231
取材協力（写真提供、資料提供など）	232
編集後記	233

【例言】

- 1 年号については、国内事象は「和暦年(西暦)」、世界的事象は「西暦(和暦)」とする。年号表記がないものは、すべて平成23(2011)年とする。
- 2 和暦年(西暦)の表記については、たとえば、第1章、1、(1)、①の場合、(1)の括りは初出だけ西暦を付し以下は略す。(2)以下も同様とする。
- 3 「」の表記については、引用文や法律名のほか、固有名詞のうち意味の取りにくいものなどを適宜括る。
- 4 地名などについては、ふりがなを付記する。
- 5 地図、表、写真の表示番号については、章ごとに記す。たとえば1-1は第1章の1番目の写真。
- 6 いわき市合併（昭和41〔1966〕年10月）以前において、現在のいわき市域を表現する際には、便宜上「いわき地方」とする。
- 7 参照となる写真や表、図、関連記述など、文中記述が離れている場合や別ページで扱っている場合は、適宜、ページ表記を行う。
- 8 本書に掲載している写真を別に転載する場合は、要連絡を。（なかには転載不可のものもあるため）
- 9 特段の記述がない場合は、令和2(2020)年12月1日現在の状況とする。